

エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット 作

ルース・クリスマン・ガネット 絵

わたなべしげお 訳

福音館書店

勇敢な男の子エルマーが空飛びりゅうの子を助ける冒険の旅を描いた物語です。娘が書いたお話に、母親が絵をつけました。ルース・ガネット親子が書いた「エルマーのぼうけん」「エルマーとりゅう」「エルマーと16ひきのりゅう」の3部作は、幼年童話の最高峰の1つとして子どもたちに読み継がれています。



エルマーのぼうけん

1963年 1100円

エルマーは、年取ったのらねこからどうぶつ島にとらえられているかわいそうなりゅうの子の話を聞き、助けに出かけました。途中で何度も動物たちにつかまりそうになりますが、そのたびに持ってきたチューイングガムや歯ブラシなどを使って危機を切り抜け、りゅうの子を無事救い出します。



エルマーとりゅう

1964年 1100円

どうぶつ島からエルマーのうちへ戻る途中、嵐にあったエルマーとりゅうは、カナリヤばかりが住むカナリヤ島に降りました。島の王様カナリヤのカン11世は知りたがりの病にかかっており、エルマーとりゅうは病気を治すため、秘密の宝を掘り出してほしいと頼まれました。みごと王様の病気を治し、エルマーは宝を手に入れ帰宅します。



エルマーと16ひきのりゅう

1965年 1100円

エルマーを送り届けたりゅうの子がそらいろ高原のうちに帰ってみると、15ひきの家族は人間たちにほら穴に閉じこめられていました。りゅうの子はエルマーに助けを求めに行きました。話を聞いたエルマーは、計画を立て再び冒険に出ます。そして、持って行ったラッパやピストルやひもを使って、りゅうの家族を助け出します。



かえるのエルタ

中川李枝子 作

大村百合子 絵

福音館書店 1964年 1200円

かんたはおもちゃの赤目のかえるを拾い、エルタと名前をつけて、庭に立派なお城と池をつくってあげます。次の日、雨にぬれるとエルタはレロレロ歌い出し、かんたと一緒に緑の船「うたえみどりのはっぱごう」に乗って「うたえみどりのしま」へ出発します。かんたはそこで、トランプのばばぬきが大好きな緑色のライオン「らいおんみどり」や、かえるのお城に住むお妃やおてんばなドレミ姫などに会います。「ばばぬきは たのし トランプに さわると 手がふるえ むねがなる」「はしれ はしれ うたえみどりのはっぱごう くろいよるが やってくる！」などのリズムカルな歌もたくさん入っています。

魅力的な登場人物、冒険やおいしいものなど、子どもが自分の持っているおもちゃから広げる空想の世界を、いきいきと描いています。姉妹編には「らいおんみどりの日ようび」があります。

絵の大村（山脇）百合子は中川李枝子の妹で、この姉妹は、「ぐりとぐら」シリーズや「そらいろのたね」「いやいやえん」など子ども達に人気のある多くの作品を書いています。



ふたりはともだち

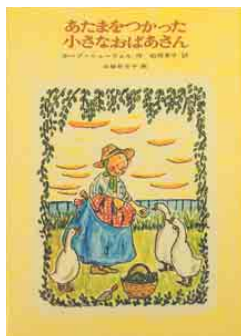
アーノルド・ローベル 作

三木卓 訳

文化出版局 1972年 854円

4月になり、かえるくんが冬眠したままのがまくんを起こしに来ました。「おきなよ、はるがきたんだよ!」。でもがまくんは5月まで寝ると言ってベッドに戻ってしまいます。そこで、かえるくんはカレンダーを破って5月にし、ようやく起きたがまくんと二人で春のようすを見に行く「はるがきた」。一度も手紙をもらったことがなくて嘆いているがまくんのために、かえるくんが手紙を書いて、かたつむりに配達を頼み、二人でしあわせな気持ちで手紙が来るのを待つ「おてがみ」など、5つのお話が入っています。「おてがみ」は教科書に載ったことがあります。どれも、お互いを思いやる友情のお話で、おかしみの中にほのぼのとした味があります。緑と茶を基調とした淡い色彩の絵が、二人の表情やしぐさをユーモラスに描いています。

アーノルド・ローベルは、アメリカの絵本作家で、「どろんここぶた」「とうさんおはなしして」「ふくろうくん」などの作品があります。シリーズにはニューベリー賞を受賞した「ふたりはいっしょ」、「ふたりはいつも」「ふたりはきょうも」があります。



あたまをつかった小さなおばあさん

ホープ・ニューウェル 作

山脇百合子 画

松岡享子 訳

福音館書店 1970年 1500円

小さな黄色い家に住む小さなおばあさんは、貧乏でしたが、頭をつかうことにかけては、たいした人物でした。小さなおばあさんが頭を使って、がちょうも自分も暖くなる方法を考える「おばあさんが、はねぶとんを手にいれた話」など9つのお話が入っています。



1ねん1くみ1ばんワル

後藤竜二 作

長谷川知子 絵

ポプラ社 1984年 1000円

くろさわくんは、乱暴者で先生の言うことは聞かないし、テストはいつも0点のクラス1のワルです。気の弱いぼくは、そんなくろさわくんに振り回されてばかり。1ねん1くみシリーズの1作目です。



うさんごろとおばけ

瀬名恵子 作・絵

グランママ社 2001年（初版1977年あかね書房）
1100円

うさんごろは、うさぎの守り神に願掛けして生まれた体も目玉も大きなうさぎで、満月の晩には特別な力が出ます。うさんごろが、おばけに会いたくてお寺の隣に引っ越しする「うさんごろとおばけ」など3つのお話が入っています。シリーズには「うさんごろとへんなつき」があります（PHP研究所刊）。



おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ

ジャンヌ・ロッシュ＝マゾン 作

堀内誠一 絵

山口智子 訳

福音館書店 1973年 1500円

掃除嫌いのために家を出されたゲルランゲは、オオカミに捕まってしまいます。掃除もできないリスは食べられないと、オオカミは、何とかしてゲルランゲに掃除を覚えさせようしますが…。シリーズには「けっこんをしたがらないリスのゲルランゲ」があります。



おっとあぶない

マンロー・リーフ 作

わたなべしげお 訳

フェリシモ 2003年 (初版1968年学習研究社)
1238円

ばかなことをしてけがした子、それが「まぬけ」。この本には「ひあそびまぬけ」「とびだしまぬけ」などいろいろなまぬけがでできます。危険をさけ、事故をおこさないよう注意するユーモラスなしつけの本です。他に「けんこうだいいち」「おぎょうぎどうするなーぜ」があります。



きえた犬のえ

マージョリー・W・シャーマット 文

マーク・シマント 絵

光吉夏弥 訳

大日本図書 1982年 1200円

パンケーキの大好きな9歳の名探偵ネートの活躍を描いたお話です。仲良しのアニーが描いた犬の絵が消えた事件を見事に解決します。小さな子どもたちのための探偵小説です。「ぼくはめいたんてい」シリーズは「まよなかのはんにん」「なくなったかいものメモ」など全6冊です。

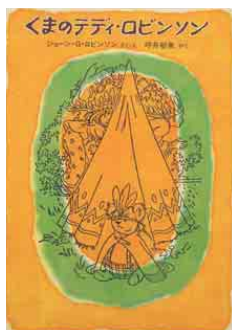


くまの子ウーフ

神沢利子 作
井上洋介 絵

ポプラ社 2001年（初版1969年）1000円

遊ぶのとなめると食べるのが大好きな、くまの子ウーフのお話です。「さかなにはなぜしたがない」「ウーフはおしっこでできてるか??」など子どもの素朴な疑問をテーマにしたユニークな話が9つ入っています。シリーズには「こんにちはウーフ」「ウーフとツネタとミミちゃん」とがあります。



くまのテディ・ロビンソン

ジョン・G・ロビンソン 作・絵
坪井郁美 訳

福音館書店 1979年 1400円

テディ・ロビンソンは、茶色のぬいぐるみのくまです。デボラという女の子のもので、ふたりは大の仲良しです。テディ・ロビンソンが新しいくまのブローチにやきもちをやく話など、7つのかわいなお話が入っています。続編には「テディ・ロビンソンまほうをつかう」があります。



黒ねこのおきやくさま

ルース・エインズワース 作
山内ふじ江 絵
荒このみ 訳
福音館書店 1999年 1200円

昔々、寒い夜に、おじいさんは1匹のやせた黒ねこを家にいれてやりました。黒ねこは、おじいさんのとっておきのミルク、パン、肉を食べつくしますが、次の朝になると…。



ごきげんいかががちょうおくさん

ミリアム・クラーク・ポター 作

こうもとさちこ 絵

まつおかきょうこ 訳

福音館書店 2004年 1000円

どうぶつ村に住む、少しおばかながちょうおくさんのお話です。「がちょうおくさんのはたけ」「クリスマスまであけないで」など6つのゆかいなお話が入っています。「どうぶつむらのがちょうおくさん」シリーズは「おっとあぶないがちょうおくさん」があります。



ごきげんなすてご

いとうひろし 作

徳間書店 1995年(初版1991年) 1300円

弟ができておもしろくない「あたし」は、捨て子になってすてきなお家に拾われることにしました。犬や猫、亀も一緒に捨て子になったけれど…。ユーモラスな絵と、両親が女の子を拾いにくる結末が、楽しいお話です。シリーズには「やっかいなおくりもの」「にぎやかなおけいこ」があります。



こぐまのくまくん

E・H・ミナリック 文

モーリス・センダック 絵

まつおかきょうこ 訳

福音館書店 1972年 1000円

小さいこぐまのくまくんを主人公にしたお話です。寒い雪の日に、くまくんがおかあさんに着るものをねだる「くまくんとけがわのマント」など4つのお話が入っています。シリーズは「くまくんのおともだち」など全5冊です。



ジェインのもうふ

アーサー＝ミラー 作

アル＝パーカー 絵

厨川圭子 訳

偕成社 1971年 1200円

ジェインは、赤ちゃんの時からピンクの毛布が大好きです。この毛布がないと眠れません。ところが、ジェインはどんどん大きくなるのに毛布はどんどん小さく、ぼろぼろになって…。幼い子が成長していく様子が描かれています。



ジオジオのたんじょうび

岸田衿子 作

中谷千代子 絵

あかね書房 1970年 950円

ジオジオは、世界中で一番強いライオンです。でも世界中で一番好きなものはお菓子です。70歳の誕生日を自分だけで祝おうと、大きなケーキを作らせますが、夢をみたことがきっかけで、みんなと一緒に楽しく食べることになりました。他に「ジオジオのかんむり」「ジオジオのパンやさん」があります。



ちいさいモモちゃん

松谷みよ子 著

菊池貞雄 絵

講談社 1974年 1100円

モモちゃんが生まれてから、3歳までのお話です。ママがミシンをたったかたあとにかけて作った30枚のパンツの話「パンツのうた」や、「にげだしたニンジンさん」「雨こんこん」など15のお話が入っています。「モモちゃんとアカネちゃんの本」シリーズは「モモちゃんとプー」など全6冊です。



チム・ラビットのおともだち

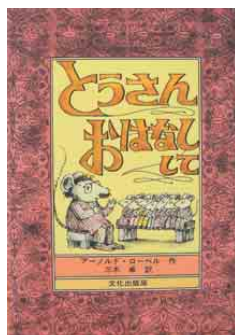
アリソン・アトリー 作

中川宗弥 画

石井桃子 訳

童心社 1967年 1500円

チム・ラビットは、元気で、きかん気で、いたずらな子うさぎです。「チム・ラビットみつばちをかう」「チム・ラビット月をさがしにいく」など9つのお話が入っています。シリーズには「チム・ラビットのぼうけん」があります。



とうさんおはなしして

アーノルド・ローベル 作

三木卓 訳

文化出版局 1973年 854円

ベッドに入った7匹の子ねずみに、とうさんが7つのお話を語ります。子ども嫌いのおじいちゃんが、子どもに助けられる「ズボンつり」など、ウィットに富んでいたり、ナンセンスだったり、どれも楽しいお話ばかりです。



どれみふぁけろけろ

東君平 作・絵

あかね書房 1981年 950円

泳ぎの苦手なたっくんは、「あおがえる たけし」になって、かえるの学校で、授業を受けることになりました。かえるの生徒と一緒に、歌がうまくて、泳ぎの上手なかえるになるために、勉強をはじめますが…。



ドレミファ・ドーナツふきならせ

森山京 作
西川おさむ 絵

フレーベル館 2002年（初版1982年）950円

森の学校にやってきた音楽のキツネ先生は、お菓子作りが得意です。カステラのチョコキやドーナツのふえに、子どもたちは大喜びです。カステラ・マーチやアップル・ダンスなど先生の作るメロディにあわせて、みんな歌い踊ります。



なぞなぞのすきな女の子

松岡享子 作
大社玲子 絵

学習研究社 1973年 900円

なぞなぞの大好きな女の子が、なぞなぞ遊びの相手を探しに森へ行き、ばったりオオカミに出会いました。舌なめずりをするオオカミに、女の子はお得意のなぞなぞを出し、考え込んでいるオオカミをおいてさっさと家に逃げ帰ります。



ネコのタクシー

南部和也 作
さとうあや 絵

福音館書店 2001年 1200円

ネコのトムは、タクシー運転手のランスさんに拾われました。ある日、大けがをしたランスさんの代わりに、トムは自慢の足をいかして、ネコのタクシーを始めました。救急車になったり、どろぼうを追いかけたりと、トムは大忙しです。シリーズには「ネコのタクシーアフリカへ行く」があります。



はじめてのキャンプ

林明子 作・絵

福音館書店 1984年 1200円

小さいなほちゃんは、重い荷物も持つ、泣かない、暗闇もこわがらないと約束して、大きな子のキャンプに連れて行ってもらいました。飯盒炊さんやキャンプファイヤーなど、なほちゃんの奮闘ぶりや興奮が、かわいらしく描かれています。



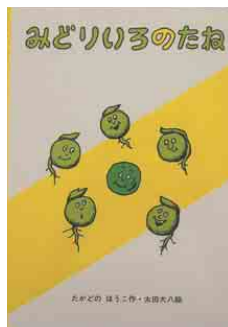
ふらいばんじいさん

神沢利子 作

堀内誠一 絵

あかね書房 1969年 854円

ふらいばんじいさんは、新しい目玉焼きなべがやってきたので、大好きな目玉焼きを焼かせてもらえなくなりました。そこで、自分にできることを探す旅に出ました。ジャングルや砂漠…、ふらいばんじいさんの冒険が始まります。



みどりいろのたね

たかどのほうこ 作

太田大八 絵

福音館書店 1988年 1200円

まあちゃんは畑にえんどうまめの種といっしょにメロンあめをうめました。ちっとも水をもらえないえんどうまめは、へいきな顔のメロンあめと大げんかのはて、メロンあめをなめてみました。すると…。



ミリー・モリー・マンデーのおはなし

ジョイス・L・プリスリー 作

菊池恭子 絵

上條由美子 訳

福音館書店 1991年 1400円

ミリー・モリー・マンデーは、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんと暮らす、元気な女の子です。お手伝いをしたり、友だちと遊んだり、楽しくて心あたたまる12のお話が入っています。



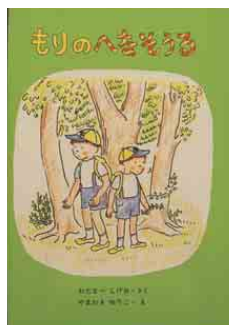
ももいろのきりん

中川李枝子 作

中川宗弥 絵

福音館書店 1965年 1200円

るるこは、桃色の紙で世界一大きくて強いきりんのキリカを作りました。ところが、キリカは夜中の雨で、窓から出ていた首がずぶぬれになり、色がはげてしまいました。るることキリカは、山のとっぺんにあるクレヨンの木を目指します。



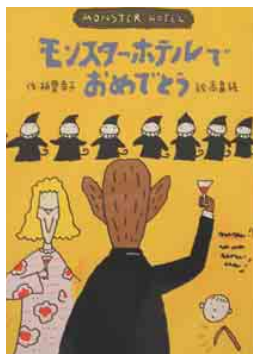
もりのへなそうる

わたなべしげお 作

やまわきゆりこ 絵

福音館書店 1971年 1300円

てつたくん、みつやくんの兄弟は、森でへんな怪獣へなそうると友だちになりました。へなそうるは、くいしんぼうでこわがりで、うれしい時はうへんうへんと笑います。かくれんぼをしたり、かにとりに行ったり、時を忘れて遊びます。



モンスター・ホテルでおめでとう

柏葉幸子 作

高島純 絵

小峰書店 1991年 900円

町はずれの古い郵便局と小さな公園の間にある空きビル、それがモンスター・ホテルです。郵便局長の孫のタイチは、そうと知らずに忍び込みます。今夜はデモンじいさんの1993才の誕生パーティで、モンスターたちが次々に集まってきます。シリーズには「モンスター・ホテルでこんばんは」などがあります。



雪の森のリサベツ

アストリッド・リンドグレーン 作

イロン・ヴィークランド 絵

石井登志子 訳

徳間書店 2003年 1700円

町ヘクリスマスの買い物に出かけた幼いリサベツは、知らない人のそりに、思わずとびのります。誰もいない森に置き去りにされてしまい、リサベツは、不安な気持ちとたたかいながら、懸命に家へ向かいます。シリーズには「おもしろ荘のリサベツ」「クリスマスをまつリサベツ」があります(いずれも岩波書店刊)。



ロージーちゃんのひみつ

モーリス＝センダック 作

なかむらたえこ 訳

偕成社 1983年(初版1969年) 1400円

キャシーがロージーのうちにいくと、ロージー扮する歌手のアリンダが現れました。他の子どもたちもやって来て、ショーが始まります。魔法使いが来るのを待ったり、花火になってとびはねたり…。子どもたちの空想の世界が広がります。



ロボット・カミイ

古田足日 作
堀内誠一 絵

福音館書店 1970年 1200円

たけしとようこが紙の箱で作ったロボットが動き出します。胴体に涙のもとを入れられたカミイは、いたずら好きで、わがままで、だけど泣き虫なロボットになりました。幼稚園に行ったカミイは、いろいろな騒動をおこします。



ワニのライルがやってきた

バーナード・ウェーバー 作
小杉佐恵子 訳

大日本図書 1984年 1456円

プリムさん一家がひっこしてきた家には、なんとワニがいました。芸達者で気だてのよいワニのライルは一家と仲良しになり、たちまち町の人気者になります。ところが、ある日、元の飼い主がライルを連れ戻しにやってきます。「ワニのライルのおはなし」シリーズは「ワニのライル、動物園をにげだす」など全8冊です。